



2026年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2025年8月13日

福

上場会社名 株式会社Misumi

上場取引所

コード番号 7441

URL <https://kk-misumi.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 平田 慶介

問合せ先責任者 (役職名) 取締役サポート本部長 (氏名) 今林 俊人 (TEL) 099-260-2213

配当支払開始予定日 —

決算補足説明資料作成の有無 : 無

決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2026年3月期第1四半期の連結業績(2025年4月1日～2025年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期第1四半期	14,586	1.3	58	—	167	113.2	98	△48.8
2025年3月期第1四半期	14,404	1.4	△40	—	78	63.0	192	—

(注) 包括利益 2026年3月期第1四半期 173百万円(△11.1%) 2025年3月期第1四半期 194百万円(△14.1%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期第1四半期	17.32	—
2025年3月期第1四半期	33.64	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年3月期第1四半期	42,289	20,009	46.6
2025年3月期	41,626	19,992	47.3

(参考) 自己資本 2026年3月期第1四半期 19,688百万円 2025年3月期 19,671百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	—	25.00	—	25.00	50.00
2026年3月期	—	—	—	—	—
2026年3月期(予想)	—	25.00	—	25.00	50.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2026年3月期の連結業績予想(2025年4月1日～2026年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	30,718	5.8	111	183.7	355	23.6	204	△52.0	35.89
通期	64,998	4.2	886	9.7	1,252	△6.7	628	△39.4	110.22

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無
新規 ―社 (社名) 、除外 ―社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

- ① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数 (四半期累計)

2026年3月期1Q	6,100,503株	2025年3月期	6,100,503株
2026年3月期1Q	401,369株	2025年3月期	395,169株
2026年3月期1Q	5,702,234株	2025年3月期1Q	5,729,003株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は : 無
監査法人によるレビュー

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項
(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料2ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(金額の表示単位の変更について)

当社の連結財務諸表に掲記される科目その他の事項の金額は、従来、千円単位で記載しておりましたが、当連結会計年度より百万円単位で掲記することに変更いたしました。

なお、比較を容易にするため、前連結会計年度及び前第1四半期連結累計期間についても百万円単位に変更して記載しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	3
(1) 四半期連結貸借対照表	3
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	5
第1四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	6
第1四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	7
(セグメント情報等)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における我が国経済は、雇用・所得環境の改善が進む一方で、食料品を中心とした物価上昇の継続により、個人消費は低調に推移しました。また、中東情勢の緊迫化等による地政学的リスクの高まりや米国の関税政策による景気後退への懸念等、依然として先行きが不透明な状況が続いております。

このような状況の中で当社グループは、「既存事業の強化」と「新規事業の開拓」を両輪とした経営戦略を推進しております。「既存事業の強化」では、主力のエネルギー事業において、研修会等の社内教育充実による従業員のスキルアップを図ることで、法人顧客の新規開拓や既存顧客に対する営業活動を強化し、燃料油・L P ガスの販売シェア拡大に努めております。「新規事業の開拓」では、新業態として、フード&ビバレッジ事業において「韓井」、ライフスタイル事業において「駿河屋」への参入を行う等、多様な消費者ニーズの変化に対応した店づくりに取り組んでおります。

以上の結果、フード&ビバレッジ部門において、K F C の新規出店による売上増加や新業態である「韓井」の売上が好調に推移したこと等により、当第1四半期連結累計期間の売上高は145億86百万円（前年同四半期比1.3%増）となり、経常利益は1億67百万円（前年同四半期比113.2%増）となりました。しかしながら、前期に比べ税金費用が増加したこと等により、親会社株主に帰属する四半期純利益は98百万円（前年同四半期比48.8%減）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

1 エネルギー

「エネルギー」セグメントの石油部門では、採算販売を重視した営業活動に加え、S S 事業において、販促アプリを活用したユーザーの囲い込みや集客イベントの開催等により、燃料油の売上確保に努めました。また、油外商材の収益確保を目的とした研修会を実施することで、従業員のスキルアップや営業力強化を図りました。

ガス部門では、新規開拓と共納先のシェアアップによるL P ガスの販売強化を図るとともに、採算販売にも注力することで利益確保に努めました。また、補助金等を活用したリフォーム受注、住設機器販売の販促活動を強化することで収益の確保に取り組んでおります。

以上の結果、石油製品やL P ガスの販売数量が減少したこと等により、売上高は110億63百万円（前年同四半期比0.6%減）となりましたが、収益状況の改善により、セグメント利益（営業利益）は1億61百万円（前年同四半期比53.8%増）となりました。

2 ライフスタイル

「ライフスタイル」セグメントのカルチャー部門では、季節商材の展開を強化するとともに、本屋大賞関連作品の拡販に努めました。また、S N S 等を活用した情報発信や人気商材のP O P U P イベントを行うことで、お客様への訴求を強化いたしました。

オプシアミスミでは、S N S 等のデジタル広告の活用や、ワークショップ・ステージイベント等を開催することで来店動機を促すなど、集客力の強化に努めました。

以上の結果、売上高は18億35百万円（前年同四半期比5.1%増）となり、セグメント利益（営業利益）は前期に新規事業の準備費用が発生したこと等により、56百万円（前年同四半期比783.7%増）の大幅増加となりました。

3 フード&ビバレッジ

「フード&ビバレッジ」セグメントの外食部門では、主力業態であるK F C において、店舗イメージの刷新を目的とした店舗改装を進めるとともに、ロス削減によるフードコスト管理を徹底し、利益改善に努めました。また、2025年6月には宮城県延岡市にK F C イオン延岡店を新規オープンいたしました。

以上の結果、売上高は16億87百万円（前年同四半期比10.4%増）となりましたが、店舗改装コストの増加等により、セグメント利益（営業利益）は66百万円（前年同四半期比1.8%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間の総資産は、前連結会計年度末に比べて6億62百万円増加し、422億89百万円となりました。これは主に、受取手形及び売掛金が減少する一方、現金及び預金や有形固定資産が増加したこと等によるものであります。

負債は、前連結会計年度末に比べて6億46百万円増加し、222億79百万円となりました。これは主に、買掛金が減少する一方、借入金が増加したこと等によるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べて16百万円増加し、200億9百万円となりました。これは主に、その他有価証券評価差額金が増加したこと等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想は、2025年5月13日発表から変更ありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2025年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,144	6,556
受取手形及び売掛金	6,090	4,707
商品及び製品	3,186	3,051
仕掛品	20	12
原材料及び貯蔵品	20	22
その他	627	600
貸倒引当金	△3	△2
流動資産合計	15,086	14,948
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	6,037	6,000
土地	11,763	12,527
その他（純額）	1,444	1,407
有形固定資産合計	19,246	19,935
無形固定資産		
のれん	1,056	1,012
その他	114	113
無形固定資産合計	1,170	1,125
投資その他の資産		
その他	6,239	6,395
貸倒引当金	△116	△116
投資その他の資産合計	6,123	6,278
固定資産合計	26,540	27,340
資産合計	41,626	42,289
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,058	2,229
短期借入金	5,250	5,180
1年内返済予定の長期借入金	3,578	3,993
未払法人税等	225	105
賞与引当金	333	512
その他	1,360	1,254
流動負債合計	13,806	13,274
固定負債		
長期借入金	5,958	7,112
役員退職慰労引当金	213	216
その他	1,655	1,676
固定負債合計	7,827	9,005
負債合計	21,633	22,279

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2025年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,690	1,690
資本剰余金	1,646	1,646
利益剰余金	15,411	15,366
自己株式	△699	△710
株主資本合計	18,048	17,993
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,515	1,601
退職給付に係る調整累計額	107	92
その他の包括利益累計額合計	1,623	1,694
非支配株主持分	321	320
純資産合計	19,992	20,009
負債純資産合計	41,626	42,289

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)
売上高	14,404	14,586
売上原価	11,484	11,486
売上総利益	2,920	3,100
販売費及び一般管理費	2,961	3,041
営業利益又は営業損失(△)	△40	58
営業外収益		
受取利息	2	4
受取配当金	31	34
受取賃貸料	56	57
その他	77	70
営業外収益合計	168	166
営業外費用		
支払利息	24	36
賃貸費用	11	10
固定資産除却損	10	7
その他	2	4
営業外費用合計	48	58
経常利益	78	167
特別利益		
固定資産売却益	0	1
特別利益合計	0	1
特別損失		
固定資産売却損	0	—
減損損失	41	—
特別損失合計	41	—
税金等調整前四半期純利益	37	168
法人税、住民税及び事業税	27	93
法人税等調整額	△186	△27
法人税等合計	△158	66
四半期純利益	195	102
非支配株主に帰属する四半期純利益	3	3
親会社株主に帰属する四半期純利益	192	98

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)
四半期純利益	195	102
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	5	86
退職給付に係る調整額	△5	△15
その他の包括利益合計	△0	71
四半期包括利益	194	173
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	191	170
非支配株主に係る四半期包括利益	3	3

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

記載すべき事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第1四半期連結累計期間(自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	エネルギー	ライフ スタイル	フード& ビバレッジ	計		
売上高						
外部顧客への売上高	11,129	1,746	1,528	14,404	—	14,404
セグメント間の内部 売上高又は振替高	4	19	—	23	△23	—
計	11,133	1,765	1,528	14,428	△23	14,404
セグメント利益又は セグメント損失(△)	104	6	68	179	△220	△40

(注) 1 セグメント利益又はセグメント損失の調整額△220百万円には、セグメント間取引消去0百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△220百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又はセグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整しております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「エネルギー」セグメントにおいて6百万円、「ライフスタイル」セグメントにおいて35百万円を減損損失として特別損失に計上しております。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間(自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	エネルギー	ライフ スタイル	フード& ビバレッジ	計		
売上高						
外部顧客への売上高	11,063	1,835	1,687	14,586	—	14,586
セグメント間の内部 売上高又は振替高	15	19	—	34	△34	—
計	11,078	1,855	1,687	14,621	△34	14,586
セグメント利益	161	56	66	284	△226	58

(注) 1 セグメント利益の調整額△226百万円には、セグメント間取引消去0百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△226百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整しております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第1四半期連結累計期間(自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)
減価償却費	200百万円	194百万円
のれんの償却額	47 〃	43 〃